

## 周南市環境審議会議事録

開催日時：令和元年12月25日 13:30～15:30

会場：周南市役所 本庁舎 シビックプラザ棟 1階 多目的室

出席状況：55名

(内訳) 委員：28名(6名欠席)、報道機関：1名、企業関係者傍聴：8名、一般傍聴：1名、市長、徳山海上保安部、周南市消防署、周南警察署：2名、周南環境保健所、企業説明者：6名、事務局：5名

### 1. 開会

### 2. 市長あいさつ

### 3. 委員の紹介

### 4. 会長・副会長の選出

会長 中尾 勝實 委員

副会長 第1順位 田中 義啓 委員

第2順位 島津 幸男 委員

第3順位 田代 克志 委員

### 5. 会長あいさつ

### 6. 議事(諮問事項)

(1) 周南バルクターミナル株式会社(以下、「SBT」という。)

『周南バルクターミナル貯炭場の移設計画』に伴う環境保全対策について

- ① 諮問事項について会社から計画内容を説明する。
- ② 諮問事項について技術調査会委員長から技術調査会での審議結果を説明する。

#### ◆質疑・応答

委員 ・バイオマスは石炭と同様に、消防法で指定可燃物に指定されている。木片状ということで粉塵爆発等の危険性は非常に低いと思われるが、その監視体制等の保安防災対策はどうなっているか。

・温度管理はどうなっているか。

SBT ・バイオマス置場にも貯炭場と同様に、スプリンクラー・散水栓を設置しており、基本的に1日1回の散水を行う。

・バイオマスの温度管理については、石炭と違い自然発火はしないので、温度計の設置はしないが、常時パトロールを実施するとともに、監視カメラでも監視する。

委員 ・当該貯炭場の設置場所は、徳山湾に突き出た晴海埠頭であり、非常に風が強い。台風時等の強風に対する対策はどうなっているか。

・バイオマスは石炭よりも軽い。海面に飛散しないか。

S B T ・防じんネットについては、風速10m/s以上が想定される場合は前もって下ろす。トラックの運用については、台風等により風が強いときには輸送等は止める。各方面から情報収集し、引き続き安全に管理していく。

・バイオマス（大きさが5cm以下の木材チップ）については、これまでの運用実績上、そこまで飛散するものではなく、現状の対応で問題ないと考えているが、飛散が増えるようであれば、1日1回の散水の回数を増やすことを検討する。

委員 ・沈降槽・貯水槽を新設した理由は何か。

S B T ・移設前は散水設備の水は工業用水を使用していたが、移設後は節水の観点から、沈降槽・貯水槽を設けて、この水を再利用することになっている。

委員 ・資料1の12ページ「環境法令届出等の一覧表」によると、必要な手続きは12月に届出済みであるが、本審議会後の手続きはどうか。

事務局 ・必要な届出等については、各々の法律等の定めに従ってなされている。なお、この環境保全対策案については本審議会に諮問されており、本日の審議結果を踏まえて答申がされた後、市から企業に対し了承する旨の書面を交付することになる。

委員 ・貯炭場の移設に伴い、東3号の発電所を建設することになると思うが、この手続きも今後進めていくのか。

トクヤマ ・東3号発電設備については、これまで必要な行政手続き・届出等を行う中で、現在着工している状態である。着工するにあたって貯炭場を移設する必要があったので、資料にあるとおり平成30年4月までは従来の貯炭場、その後は貯炭場を縮小しつつ、東3号発電設備の建設に入っている状況である。令和2年11月に、まず東2号発電設備に向けた石炭輸送のベルコンが完成する予定で、東3号発電設備の完成は2022年度を予定している。

今回の計画について了承として答申することを決定する。

## 7. 議事(報告事項)

### (1) 周南市環境政策課

#### 第2次周南市環境基本計画(後期)(案)について

- ① 計画(案)の内容について環境政策課から説明する。

#### ◆質疑・応答

委員 ・「第5節 大気・水環境などの保全」の指標と数値目標について、「光化学オキシダントの環境基準超過日数」の令和6年度の目標値が70日となっている。環境基準の100%達成を目指すということであれば、ここの目標値はゼロになると思うが、もう少し意欲的な、思い切った目標の設定ができないか。また、前期計画における当初の数値はどうだったか。

事務局 ・過去の実績から、現実的なところで、平成30年度実績の82日から12日減らすことで設定している。今後、整合性については十分協議して、環境基本計画推進委員会(以下、「推進委員会」という。)に報告して、検討したい。前期計画においては、この指標の設定はなく、今回新たに設定したものである。

委員 ・48～49ページに基本施策ごとの指標と数値目標の設定があるが、今回新しく設定したものなのか、今までのものを更に5年継続するものなのか。5年前に示した目標値と現状値、そして新たな目標値を一つの表に示してはどうか。

事務局 ・推進施策や事業については、全庁的に精査をお願いし、その調査を踏まえ整理した。指標と目標は、15の基本施策全てに設けるということで推進委員会に諮って設定している。ご指摘のあった、どれが継続なのか、新規に設定したものなのか、また、5年前の数値がどうであったのかの表記については、推進委員会に報告し、検討したい。

委員 ・今後、後期計画の進捗管理を行うにあたり、年度ごとの計画、目標値を設定すると思うが、進捗管理の頻度や進め方、決定の仕方等を明らかにしてもらいたい。

事務局 ・毎年、環境報告書という形で一年の実績を冊子にまとめ報告している。この中で、課題や成果、今後の方向性について各所管課で掲げてもらうこととしており、これを以て毎年ローリングしていきたいと考えている。

委員 ・「現状と課題」について、現状は良くわかるが、その中から課題については読み取れないように感じる。例えば、本市と同規模の地方都市の現状

とを比較することで、本市にどのような課題があるのか、そこから導かれる数値目標に反映できると考える。「現状と課題」については、分かり易く記載していただけるとありがたい。

事務局 ・ 「現状と課題」の表記の仕方については、他市との比較等も含めて、検討したい。

委員 ・ 環境というのは色々な側面から検討すべきで、前期計画策定の時に公害等ネガティブなことだけでなく、伸ばすべき自然公園等について記載してはどうかと提言した。本計画でも50ページにコラムとして記載があるが、地域の概要だけでは不十分で、山口県や本市において該当するものが何であるかを記載するべきである。太華山は第2種特別地域であり、他には無人島の洲島もあるが、太華山は簡単に行けるということで、中国四国環境事務所でも抜群の評価を得ている。

事務局 ・ 太華山、瀬戸内海国立公園については、環境部署としては本市の環境を守る宝だと認識している。地元の愛山会の皆さんが熱心に保全活動をされていることについても、市として支援していかなければならないと考えている。50ページのコラムの内容についても精査して、分かり易く表記するように推進委員会に諮りたい。

委員 ・ 我が周南はコンビナートなくしては有り得ない、まさに運命共同体である。二酸化炭素排出量は日本で14億t、その1%の1,300万tが周南から出ており、その内企業から出るのは約90%である。私が言いたいのは企業から出るのが悪いのではなくて、頑張っていること、排出削減のための様々な取組や企業目標の設定、組織作りや投資等の具体的なものを、例えばこの計画に掲載できないか。市民に努力を求めるだけではなく、企業の皆さんが努力していることを世の中に打ち出すというのはどうか。

事務局 ・ 本市においても、二酸化炭素排出量の削減は大変重要な課題であると認識している。現在も国の動向や、企業の皆様の取組について注視している。市内企業の皆様の先進的・画期的な取組について、公表できるのであれば、本市の環境報告書やホームページで開示していきたいと考えている。開示させていただける情報があれば、是非市の方へご連絡いただきたい。

委員 ・ 資料編にアンケート結果があるが、一般市民の環境に対する関心度というのは、残念ながら少しずつ低下しているように感じている。そういう意味からすると、やはり小学校等でしっかりした環境教育をやっていくということが非常に重要で、環境部局と教育委員会がもう少し連携を深めないといけないと思う。また、小学生はもっと自然に親しみたいという気持ち

が大きく、そういう時期に身近な自然のなかで遊ばせることをやっていかないと本当の意味の生きる力を持った子供が育たないと思う。

事務局 ・環境というものは小さいときから身に着けておかないと、大人になってから急にライフスタイルを変えるとというのはなかなか難しいものである。本市においても、そういった観点から子供向けの施策として、「キッズエコチャレンジ」や「エコ日記」などを実施している。また、学校教育の中で、先生方も環境教育をする教育資材がなかなかないということも伺っており、「エコすごろく」を新たな学習資材として作成し、子供たちの自主的な活動や授業を支援している。

委員 ・先日、宇部で「SDG s 未来都市」の認定を受けた中国地方の7自治体が集まって色々と事例発表があった。宇部市は「宇部方式」を前面に出して認可されているが、周南市も宇部方式の下に環境行政をやっている伝統があるので、当市におかれても「SDG s 未来都市」に応募して、一段と環境政策を進めていただきたいと思う。

事務局 ・宇部市は県内では先進市ということで、環境に取り組むNPO団体も数多くある。本市においても、そういった先進市の動向を踏まえながら、周南市としての特色、どこに力を入れていったら良いのかといったことを検討していきたいと考えている。

委員 ・先程、企業のCO<sub>2</sub>関係の取組の話があったので、今我々が企業としてどういったことを実施しているか参考までにお話させていただく。ご存じのとおり、我々の会社（東ソー）では自家発電設備として石炭ボイラーをもっているが、この燃料としての石炭をバイオマスに置き換えることによって、CO<sub>2</sub>を削減しようという取組、それから、もっと積極的にCO<sub>2</sub>を削減しようということで、会社の中に「CO<sub>2</sub>の削減及び有効利用に対する委員会」を設置し、化学会社としてCO<sub>2</sub>を単に削減するだけでなく、積極的に有効活用していくという取組をしている。そして、これまでの発電設備を更新する際には、より効率の良い設備にすることで、同じ発電でもこれまで以上にCO<sub>2</sub>の排出を少なくするという取組をしている。もう一つ言えば、最近廃プラスチックの問題が出ているが、我々のところでは、廃プラスチックを積極的に社会から受け入れて、それを燃料代替にすることによって結果的に社会に貢献しながら、かつ、CO<sub>2</sub>の削減を行う。それから、最近自然災害が多いということで、そこから出てくる廃材を積極的に受け入れ、それを一つの燃料や資材として活用することで、災害に対して貢献している。このように、あらゆる角度から取組を行っているということをご理解いただきたいと思っている。